前頭筆頭の西神門は先場所9番勝ち、今場所も初日に大神楽に敗れたのみ。千代鈴との稽古を見た錦風親方は「こいつは強い、今場所もきっと優勝争いに絡んでくるぞ！」と豪語していたが、鉄甲、出羽翼の勝間田部屋の三役力士を撃破して6勝1敗としていよいよ優勝争いに加わってきた。

西神門○（寄り切り）●出羽翼

「西神門は七日目で三役との対戦を終えて、残り4日間は平幕相手だ。これは優勝に向けて西神門が相当有利だなぁ。」とは鹿賀乃戸親方。

「西神門は稽古場では千代鈴とほぼ互角なんですよ。」と春日根親方が言うように、横綱千代鈴が一番恐れているのは同じ部屋の西神門かもしれない。

好調の大関大神楽がこのまま負けずに走って横綱千代鈴との千秋楽決戦になるかと思われたが、大神楽に土がついたことで優勝争いは混戦となってきた。

優勝争いの先頭に立った平幕の夢ノ花は残り4日、1敗力士や三役力士との対戦が組まれそうだ。

みな初顔の相手ばかりでどういった相撲になるのかが未知数。ここまで技能相撲で白星を積み重ねてきていて上位との対戦が非常に楽しみだ。

次の本場所は11月18日の開催。果たして千代鈴、大神楽は白星を重ねるのか、夢ノ花を止めるのは誰か、楽しみは尽きない。どういう展開となるのか、乞うご期待。

（錦風）

# 十両は西旭が単独全勝

十両は西旭が安定した相撲で全勝をキープして単独トップを維持。これを1敗で蛮国と大石丸が追う展開。この先誰が西旭を止めるのか、と思わせる強さをみせているが、このまま全勝優勝でもしようものなら、一気に幕内という可能性も出てくる勢いだ。

中日の対戦相手は幕内経験もある寶蔵宝蔵。しかし、組んで直ぐに左を差した西旭が寄り切って宝蔵を問題にせず圧勝。「いやー、強いねー」と各親方を唸らせた。

西　旭○（寄り切り）●寶　蔵

翌七日目の相手は十両尻まで下がり後がなくなった柏陵山。初日こそ黒星だったが、二日目からすべて押し倒して5連勝と盛り返してきた。

この勢いで西旭を止めたいところだったが、柏陵山の右攻めをものともせずサッと左を差して出足よく寄り切った。

柏陵山●（寄り切り）○西　旭

まだ十両2場所目の西旭だが、そうは感じさせない堂々たる相撲を見せている。場所前は大石丸に注目が注がれていたが、ここまでは完全に主役は西旭である。このまま終盤戦に向けてどこまで連勝を伸ばして行くのか楽しみだ。

富士浪部屋から夏雄大以来となる幕内力士誕生の期待がかかる蛮国。五日目まで1敗と先場所から好調を維持。

七日目は自身も昇進を狙う西勢ノ里との一番。ともにのど輪を差し入れる応酬となり、最後は土俵際体重で上回る蛮国が体を預けて押し倒しで勝ち越しを決めた。

西勢里●（押し倒し）○蛮　国

「やっぱり蛮国の重さが効いたよねー」とは山里親方。これでこの後対戦が組まれるであろう西旭との取り組みが楽しみになって来た。

大石丸が下馬評どおりの活躍で1敗を堅持。西旭は左差しからの攻めだが、大石丸は左でも右でも取れるのが強みである。中日、七日目はともに押し倒しで勝負を決めた。

大石丸○（押し倒し）●越境山

実は四股名を大石丸と名付けたきっかけは春日根部屋の女将さんの提案だそうで、その改名効果に乗じて大石丸自身も更に白星を積み重ねていきそうだ。スカイブルーの鮮やかな廻しが益々存在感を増していくことだろう。

春日根部屋は十両ではこの西旭と大石丸、幕内では千代鈴と西神門と合わせ、二段制覇も見えてきた。

大石丸○（押し倒し）●葵　盛

五日目まで1敗だった筆頭の真田丸が連敗を喫し3敗となって優勝争いから後退。

西筆頭で同じ一門の駒波も4勝3敗と残り四日で昇進を見据えての勝ち越しを目指す。

西富士○（押し倒し）●真田丸

逆馬山が四日目から4連勝とし勝ち超しにリーチ。2日間とも押し倒しでの決まり手に会心の相撲と思いきや「んー、こういう相撲じゃないんだよなぁ。」と錦風親方。

「勝ったんだからいい相撲なんじゃないの」と理事長が返すが、弟子の相撲内容に手厳しい評価を下す錦風親方。

ゆくゆくは、若ノ嶋の土俵入りで太刀持ちと露払いを任せたい親方だが、それを叶えるには一場所でも早く幕に上がることが肝心である。

が、それよりも何よりも若ノ嶋の復活の方が先となるのだが…。

太刀鳳が角武蔵に敗れて早々と負け越しが決まった。下に二枚しかない為、残留するには残り全て勝つしかない状況だ。「幕下に落ちても取るの？」と鹿賀乃戸親方。

「分からないけど、まだ27歳だしね」と含みをもたせる友砂親方。「多分、絶対に取らせるんだろうなぁ」と心の中で思った山里親方であった。

今場所こそは、と勝ち越しを目指す英風は中日に角武蔵に敗れて4敗目。「やっぱり十両じゃ通じないのかなー」と弱気な発言の鹿賀乃戸親方。

勝ち越すには残り4日で3勝が必要となる厳しい星勘定ではあるが、紙相撲は最後まで何が起こるか分からない、踏ん張りに期待したい。

（勝間田）